

平成 29 年度 事業報告書

平成 29 年 6 月 1 日から平成 30 年 5 月 31 日まで

特定非営利活動法人陸前高田まちづくり協働センター

1 事業の成果

当団体は、住民が信頼関係でつながり、楽しく生き生きと生活し、自己実現ができる陸前高田らしい地域づくりを進めるために支援し、岩手県における協働のまちづくりを推進し、市民主体の豊かな市民社会の創造に寄与することを団体の目的に置き、「陸前高田まちづくり協働センター」事業所の運営を軸に活動を実施した。地域運営母体の強化・再構築支援として実施している高田地区市民会議では、住民が主体的に企画を考え、その準備や運営に携わり、一年の集大成として開催した住民交流企画では 200 人近い地区住民が集まり盛会となった。また、担い手育成を目的に開催している講座では参加者同士にこれまで無かったつながりができ、新しいアイデアや可能性が生まれる効果が見られた。着実に、思いを実現させるノウハウを身につけ、自信と経験値が蓄積されていると感じている。他方で担い手の不足は大きな課題として今後も継続して支援が必要となる。震災後に立ち上がった多くの NPO 等や外部の支援者とのつながりを資源に、今後も継続して地域に寄り添い、息の長い支援を実施していきたい。

2 事業の実施に関する事項 ※()内はレスパイトハウス・ハンズからの協力

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲
市民・行政・NPO・企業等の協働推進、相談支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口対応 ・情報収集／発信 ・講座、研修会開催 ・貸し室支援 	月～土 9:30 ～18:30	陸前高田市	4 人 (3 人)	地域団体 NPO 市民個人
まちづくり支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの場づくり支援 ・陸前高田 NPO 協会事務局 等 	随時	陸前高田市	2 人 (2 人)	地域団体 市民個人 市内外のNPO
公共団体及び各種団体の事業の協力、受託、支援、交流に関する事業	<ul style="list-style-type: none"> ・高田大隅つどいの丘商店街事務局業務補助 ・高田地区コミュニティ推進協議会支援 ・地域支え合い協議体構築事業受託 ・まちなか交流広場交流施設管理業務委託 ・土地利活用等促進業務委託 	月～土 9:00 ～18:00	陸前高田市	3 人 (3 人)	市民 地域団体 商店街事業者 NPO 等

1. 市民・行政・NPO・企業等の協働推進、相談支援事業

(1) 復興支援、被災者支援等に取り組む団体・個人への相談支援

陸前高田まちづくり協働センター事業所に相談窓口を常設し、来所、電話、Eメール等で寄せられる相談に対応した。また、地域や市民活動団体、行政からのファシリテーター派遣や講師派遣の依頼にも対応したほか、組織や団体のつなぎの支援も行った。

■ センター総利用者数(集計期間:平成29年6月1日～平成30年5月31日まで)

月	利用人数	利用区分			
		直接利用	間接利用	貸室利用	計
6月	319人	107人	113人	99人	319人
7月	327人	89人	77人	161人	327人
8月	254人	75人	74人	105人	254人
9月	246人	77人	90人	79人	246人
10月	263人	80人	78人	105人	263人
11月	239人	63人	82人	94人	239人
12月	279人	55人	50人	174人	279人
1月	178人	45人	69人	64人	178人
2月	241人	63人	71人	107人	241人
3月	257人	81人	85人	91人	257人
4月	188人	65人	73人	50人	188人
5月	171人	66人	54人	51人	171人
合計	2,962人	866人	916人	1,180人	2,962人

相談内容は事業運営に関するものや広報周知に関する依頼が最も多く、ついで団体情報や地域情報に関する情報照会が多かった。助成金情報に関する相談も多く、地域からは地域活動に使えるものや、震災で流失した伝統行事を復活させたい、再建した集会所の備品を揃えたい等の相談が寄せられた。

■ 相談対応の実績(集計期間:平成 29 年 6 月 1 日～平成 30 年 5 月 31 日まで)

※開設日数	268 日				
相談者利用形態	相談				合計
	設立	組織運営	事業運営	照会	
NPO	1 件	2 件	47 件	22 件	72 件
地域	0 件	0 件	9 件	6 件	15 件
個人	0 件	0 件	6 件	11 件	17 件
行政	0 件	0 件	18 件	2 件	20 件
企業	0 件	0 件	22 件	13 件	35 件
合計	1 件	2 件	102 件	54 件	159 件

(2) 復興支援、被災者支援に取り組む団体等の情報発信

陸前高田まちづくり協働センターのホームページにて、団体の活動に役立つ助成金や研修等の情報を発信した。ほか、復興に向けて動いているまちの様子を facebook で定期的に発信し、支援活動を通じてできた市内外のつながりの維持・拡大に務めた。また、同センター内に情報コーナーを設置し、各団体の活動に関する情報を収集し、利用者の望むタイムリーな情報の提供に努めたほか、地元紙東海新報紙面上での団体紹介を 6 月から 3 月の 10 か月間、月 2 回の記事掲載を行い市民への NPO 等の周知拡大を図った。

■ 情報発信の実績(集計期間:平成 29 年 6 月 1 日～平成 30 年 5 月 31 日まで)

HP アクセス数	9,211 件	更新回数	HP	163 回	ブログ	43 回
広報物取扱件数	74 件	NPO:34 件、地域:4 件、行政:16 件、企業・事業者:20 件				
東海新報掲載	18 団体	復興状況の発信	10 回			

(3) 復興まちづくりの担い手育成

まちづくりコーディネーター育成講座と題した全 4 回の講座を開催。昼開催の前期と夜開催の後期の二度開催し、市民個人や既に活動を開始している人等に対して当団体が持つ地域づくりのノウハウを提供した。前期は既に活動を開始した人に向けた基礎と実践を、後期は少しハードルを下げ、基礎の学びと体験を楽しむ内容で組み立てた。岩手沿岸では地域づくりを学ぶ機会が少ないため、陸前高田市内だけではなく市外からも多くの参加者があり、また全編を通して満足度も高かった。

■ まちづくりコーディネーター育成講座《前期》

	日時	テーマ	参加人数
第1回	平成29年7月5日	まちづくりの基礎知識	22人
第2回	同年7月19日	話し合いの仕方(ファシリテーション)	22人
第3回	同年8月9日	企画立案①課題の抽出・整理	17人
第4回	同年8月30日	企画立案②企画書作成・プレゼンテーション	17人
第5回	同年9月13日	広報の考え方とチラシの作り方	20人



(前期講座:まちづくりの基礎知識)



(前期講座:企画立案・プレゼンテーション)

■ まちづくりコーディネーター育成講座《後期》

	日時	テーマ	参加人数
第1回	平成29年10月11日	まちづくりの基礎知識	6人
第2回	同年10月28日	話し合いの仕方(ファシリテーション)	4人
第3回	同年11月15日	事業計画の立て方	4人
第4回	同年12月2日	広報の考え方とチラシの作り方	6人



(後期講座:話し合いの仕方)



(後期講座最終回)

この他、他団体からの依頼により以下の研修に講師を派遣した。

■ 講師派遣

実施日	参加者数	内容等
平成 29 年 10 月 25 日	6 人	NPO 法人きらりんきっず内部研修①
平成 29 年 11 月 1 日	6 人	NPO 法人きらりんきっず内部研修②
平成 29 年 11 月 17 日	6 人	NPO 法人きらりんきっず内部研修③
平成 29 年 9 月 28 日	10 人	大船渡市市民活動支援センターからの依頼により、学ぼう会の中で会議ファシリテーションの研修を実施
平成 29 年 11 月 18 日	10 人	みちのくワークショップフォーラム会議ファシリテーションの研修を実施

(4) 復興まちづくりの活動を行うNPO等の活動状況調査

陸前高田市で復興まちづくりの活動を行っているNPO等の活動状況をヒアリングやアンケートにより調査し、各団体の活動分野、範囲、受益者を可視化し、復興まちづくりに向けた効果的な連携・協働の促進につなげること、今後のNPO等への活動支援につなげる材料とすることを目的に実施した。調査では、市内のNPO法人や一般社団法人、任意団体・サークルなど37団体に協力を依頼し、23団体から回答を得た。結果は現在ホームページで公開している。

調査の結果、市内の団体の多くが組織運営、事業運営共に人材、資金に課題を持っていること、人材育成につながる研修会や講座の開催ニーズが高いこと、他セクターとの連携・協働につながる企画や機会提供を望んでいることが分かったため、今後の事業に活かしていきたい。

調査結果：https://drive.google.com/file/d/1_jddZDTuT-Zra9WJR9p_az6D5yaor2m/view

2. まちづくり支援事業

(1) 住民参加型会議のサポート（話し合い支援）

平成 26 年度から陸前高田市内の高田地区を先行モデル地区として、地域のコミュニティ推進を担う高田地区コミュニティ推進協議会をパートナーに、「高田地区市民会議」を運営。地域づくりに想いを抱く住民と、地区内の町内会長や自治会長等の参加のもと、各町内会・自治会の現状に関する情報共有、課題共有、課題解決のアイデアの検討と実践を支援した。



同地区は東日本大震災により大部分が被災し、住宅再建は市内で最も時間を要する地区の一つであり、壊れたコミュニティの再形成と地域運営母体の再構築を課題としていることから、「住民交流とつながりづくり」をテーマに高田地区市民会議発の企画を検討、2 月末に住民交流の企画を実施した。「新春カラオケ祭り」と題したこの企画は、地区内の各町内会や自治会の中での住民が集まる機会を生み出すことが企画の趣旨となっている。カラオケ祭りの出場者を各 1 名ずつ町内会等から推薦してもらおう形式を取り、誰を代表として送り出すのかを考えるとまず集まってもらうことを想定していたが、町内会等によってはこの企画のために集まり歌を歌いながら交流する機会が生まれたり、出場者を応援するための横断幕を手作りする等、一つにまとまる機会として活用された様子が伺えた。

企画の運営にあたっては高田地区コミュニティ推進協議会の協力のもと、地区住民から実行委員を募り、30 名ほどの実行委員会を組織して企画の準備から当日の運営、事後処理を住民が担う形で進めた。当日は実行委員、出演者、応援の住民等およそ 200 名が参加し、笑顔の絶えないにぎやかな中で交流が図られた。



(高田地区市民会議での検討の様子)



(新春カラオケ祭りの様子)



(自分たちの自治会の代表者を応援する住民)



(イベント運営を担った実行委員会のメンバー)

■ 平成 29 年度高田地区市民会議実施経過

	日時	テーマ	参加人数
第 1 回	平成 29 年 6 月 22 日	町内会、自治会の現状について	19 人
第 2 回	同年 7 月 11 日	現状から自分たちが関わる事を考える	11 人
第 3 回	同年 8 月 24 日	町内会、自治会の「しくみ」「くらし」等	6 人
第 4 回	同年 10 月 26 日	今年度の企画開催について ①	8 人
第 5 回	同年 11 月 27 日	カラオケ祭りの開催について②	13 人
第 6 回	同年 12 月 14 日	「カラオケ祭り&七夕写真展」について①	13 人
第 7 回	平成 30 年 1 月 19 日	「カラオケ祭り&七夕写真展」について②	28 人
第 8 回	同年 2 月 9 日	「カラオケ祭り&七夕写真展」について③	29 人
第 9 回	同年 2 月 21 日	「カラオケ祭り&七夕写真展」について④	24 人
参加人数計			151 人

※第 7 回以降は「新春カラオケ祭り&うごく七夕まつり写真展実行委員会」を兼ねて開催

また、主催する話し合いの場以外に地域やNPO等からのファシリテーター派遣へも対応した。内容は高校生を対象としたアイデア出しのワークショップ、高台移転者の懇談会、行政からの依頼によるワークショップの実施補助などで、件数は11件、参加者は424人だった。詳細は以下の通り。

■ ファシリテーター派遣

No.	日時	参加者数	内容
1	平成 29 年 7 月 9 日	40 人	NPO 法人 NICE からの依頼による、高校生対象のワークショップサポート
2	平成 29 年 9 月 3 日	150 人	高田地区コミュニティ推進協議会からの依頼による、高台移転者のまちづくり懇談会サポート
3	平成 29 年 9 月 7 日	53 人	JCN からの依頼による、JCN 現地会議 in いわたのグループファシリテーター
4	平成 29 年 11 月 19 日	50 人	市都市計画課からの依頼による、景観シンポジウムのコーディネーター
5	平成 30 年 1 月 16 日	17 人	中田災害公営住宅に関する会議のファシリテーター
6	平成 30 年 2 月 11 日	70 人	岩手大学三陸復興創生推進機構コミュニティ班からの依頼による、大型災害公営住宅自治会交流会のグループファシリテーター
7	平成 30 年 2 月 14 日	10 人	岩手県政策地域部からの依頼による、「幸福を考えるワークショップ」のグループファシリテーター
8	平成 30 年 2 月 20 日	15 人	中田災害公営住宅に関する会議から派生のコミュニティ形成に関する会議のファシリテーター
9	平成 30 年 3 月 8 日	5 人	ジオ・アカマツからの依頼による、新市街地に対するグループインタビュー。高校生対象
10	平成 30 年 3 月 8 日	7 人	ジオ・アカマツからの依頼による、新市街地に対するグループインタビュー。社会人対象
11	平成 30 年 3 月 9 日	7 人	ジオ・アカマツからの依頼による、新市街地に対するグループインタビュー。子育てしている人、高齢者が対象

(2) 復興まちづくりのネットワーク事業

ネットワーク事業は市内で活動するNPO等により結成する「陸前高田市NPO協会」との協働で取り組み、復興課題やまちづくりの課題解決につながるアクションをNPO、行政、事業者等の連携により実施できる体制構築を図った。

陸前高田 NPO 協会は、復興のその先を見据えて地域社会の持続性を高めるため「陸前高田市のまちづくりのプレイヤー不足を解消するために、地域住民にまちづくりに参加する開かれた機会を提供することによって、当事者意識を持って行動できる人を増やす」ことを目的としている。

設立初年度の今期は、「情報の仲介窓口」「各会議体の運営及び開催」「地域課題解決のため協業プロジェクト」の3事業をそれぞれ推進することができた。また、中長期の取り組みとして、立教大学と岩手大学の協働事業である「陸前高田グローバルキャンパス」との連携を進め、次年度に向けた具体的な指針と取り組みを計画することができ、さらに、陸前高田市の総合計画策定について所属団体と意見交換し提言を行った。総合計画への NPO 総意による提言は、これまでの陸前高田市ではなかった動きであるため、大変価値のある一歩だと言える。

本年度特に手応えを感じる事が出来たのは、幹事や会員の顔を合わせる機会を多く持ち、少しずつ「相互理解と信頼関係構築」ができたことである。これまでは NPO 全体としてどこか支援、あるいは連携待ちのような雰囲気があったが、自ら積極的に発言し連携を促進するような動きが出てきたと感じている。連携をするということは一朝一夕ではいけない面もある。陸前高田 NPO 協会として「『相互理解と信頼関係の構築』を今後も地道に丁寧に取り組んでいくことが重要である」と再確認できた1年であった。

(3) 地域と NPO 等テーマ型の専門家とのつなぎを目的とした企画

NPO 等の活動に住民が触れ、知って活動への参加につなげるための機会提供を自主事業として行った。この機会提供は、「市民がつくるみんなのまちづくりの学校」をコンセプトに、自分たちの暮らすまちを様々な視点で知り、学び、おなじ価値観を共有できる仲間との出会いを創出することで、一人ひとりのまちへの関心を高め、まちづくりに参加するきっかけをつくることを目的に、講師は市民や NPO に務めてもらい、自分のまちへの自信、誇りを深め、また、自団体の活動を市民に知る機会としてもらい、その後の活動への参加につながる循環の仕組みを生み出す狙いをもって開催した。

陸前高田市では NPO 法人が震災前の 10 倍にまで数を増やしたが、地域からの認知度や信頼は低く、誰が何をしているのかについての関心は低い。今回の企画では参加人数こそ多くはなかったが参加者の満足度は高く、各 NPO の活動を直接聞き、知り、触れたことで、地域の課題を見つめ直し、自分もまちづくりに参加したいという思いを新たにしたいようだった。次回開催への期待も寄せられていることから、次年度以降は担い手育成の活動と絡めながら小規模でも継続していきたい。

みんなの学校～2018 冬～ 実施報告

開催日時：平成 30 年 2 月 12 日（月祝） 10:00～15:00

会 場：陸前高田グローバルキャンパス

講 師：一般社団法人 SAVE TAKATA 山本健太氏、一般社団法人震災語り部くぎこ屋 釘子明氏、NPO 法人桜ライン 311 岡本翔馬氏、NPO 法人りくカフェ 鶴浦章氏、NPO 法人総合型りくぜんたかた 吉田由香氏、戸羽理智氏 …5 団体 6 人

参加人数：のべ 29 人



3. 公共団体及び各種団体の事業の協力、受託、支援、交流に関する事業

(1) 高田大隅つどいの丘商店街事務局業務補助

高田大隅つどいの丘商店街は、構成店舗、事務所の相互扶助の精神に基づき、地域住民のために必要な共同事業を行うとともに、各店舗・事務所の自主的な経済活動を推進し、経済的地位の向上を図る事を目的に開設。各店舗がそれぞれ事業・営業を実施。飲食店の他、商店、学習塾、NPO 法人事務所など計 12 事業者が店舗・事務所を構え、それぞれ顧客や取引先が訪問し、多様な人たちがつどい場所となっている。

事務局補助として 1 名を配置し、共用部分に関わる施設管理、問合せ対応や広報活動、定例会の運営、商店街オープン 4 周年記念イベントの対応などを行った。仮設商店街の期限が平成 30 年 9 月で終了となるため、今後は入居店舗それぞれの再建に向けた動きの共有や、商店街をどうしていくかを検討していくことが重要課題になる。

(2) 高田地区コミュニティ推進協議会への支援スタッフ派遣

高田地区市民会議において、平成 27 年度は住民主体の地域づくりを積極的に行うために地域づくり計画の策定を行った。策定した計画に基づいて取り組みを行っていくところだが、その実施に向けて支援スタッフの派遣依頼を同協議会より受けたため、以下の期間において支援スタッフ 1 名を派遣した。

なお、平成 29 年 3 月 31 日までを当面の期間としたが、継続の要請があり、双方協議の上で平成 29 年 5 月から支援スタッフの派遣を再開することとした。

【支援先】

高田地区コミュニティ推進協議会(場所:陸前高田市コミュニティホール)

【主な支援業務】

地域づくり計画等の推進、高田町まちづくり相談支援、その他コミュニティホール電話対応等

【支援員派遣期間】

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

(3) 地域支え合い協議体構築事業

本事業は、地域における高齢者についての課題や解決策について、関係団体や住民が共に協議する場を設置し、地域に暮らす住民同士が互いにつながり、支え合う体制の構築による資源開発等を推進することを目的に実施するものであり、市民生部地域包括から委託を受け、平成 29 年 4 月 1 日から事業に着手している。事業期間は平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日まで。

内容は当市のコミュニティ推進協議会設置地区を単位に、各地区で年間 6 回の協議の場を設定し、高齢者が生き生きと暮らせる地域を目指して、高齢者の社会参加の促進等について地域住民が話し合う場をつくることを主として、地域の中でのつながりづくり、資源発掘、サービス開発等を支援する事業として、各地区との協議の場づくりに向けた調整および実施と、サロン等を訪問しての現状把握に努めた。実施状況は下表の通り。なお、平成 30 年 4 月 1 日からは地域支え合い活動推進事業に名称を変え、平成 31 年 3 月 31 日までを事業期間として引き続き協議の場づくりを進めている。

■ 実施状況：平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日まで

地区名	実施状況							
下矢作	協議	2 回	事前協議・打合せ	12 回	訪問・ヒアリング	0 回	サロン活動 サポート	0 回
矢作	協議	4 回	事前協議・打合せ	9 回	訪問・ヒアリング	8 回	サロン活動 サポート	4 回
生出	協議	6 回	事前協議・打合せ	7 回	訪問・ヒアリング	3 回	サロン活動 サポート	0 回
横田	協議	6 回	事前協議・打合せ	7 回	訪問・ヒアリング	1 回	サロン活動 サポート	0 回
竹駒	協議	2 回	事前協議・打合せ	12 回	訪問・ヒアリング	0 回	サロン活動 サポート	0 回
長部	協議	6 回	事前協議・打合せ	15 回	訪問・ヒアリング	2 回	サロン活動 サポート	0 回
高田	協議	9 回	事前協議・打合せ	17 回	訪問・ヒアリング	0 回	サロン活動 サポート	0 回
米崎	協議	2 回	事前協議・打合せ	10 回	訪問・ヒアリング	19 回	サロン活動 サポート	0 回
小友	協議	1 回	事前協議・打合せ	7 回	訪問・ヒアリング	21 回	サロン活動 サポート	0 回
広田	協議	0 回	事前協議・打合せ	14 回	訪問・ヒアリング	5 回	サロン活動 サポート	0 回

(4) まちなか交流広場交流施設管理業務委託

新市街地に設置されたまちなか広場交流施設通称ほんまるの家の施設利用対応、利用相談、および施設の利用促進につながる企画立案と運営を、陸前高田市および陸前高田商工会と情報共有、協議を行いながら実施した。事業期間は交流施設開所の平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 5 月 31 日まで。

■ 交流施設利用実績

年月	開館日数	貸切利用件数	貸切利用人数	貸切以外の 利用人数	総利用者数
29 年 10 月	31 日	13 件	120 人	1,317 人	1,437 人
29 年 11 月	30 日	24 件	778 人	670 人	1,448 人
29 年 12 月	29 日	13 件	169 人	626 人	795 人
30 年 1 月	28 日	18 件	183 人	737 人	920 人
30 年 2 月	28 日	27 件	290 人	551 人	841 人
30 年 3 月	29 日	21 件	483 人	1,455 人	1,938 人
30 年 4 月	30 日	16 件	181 人	1,067 人	1,248 人
30 年 5 月	31 日	29 件	335 人	726 人	1,061 人
合計	236 日	161 件	2,539 人	7,149 人	9,688 人

■ 利用促進企画

No.	日時	参加者数	内容
1	平成 29 年 12 月 10 日	16 人	お菓子のいえをつくろう
2	平成 30 年 1 月 10 日	12 人	リラックスカフェ
3	平成 30 年 2 月 23 日	10 人	タカタカレー部(昼)
4	平成 30 年 2 月 25 日	11 人	タカタカレー部(夜)
5	平成 30 年 3 月 21 日	6 人	古本交換カフェ
6	平成 30 年 4 月 21 日	27 人	テーブルゲームであそぼう!
7	平成 30 年 5 月 27 日	1,000 人	ほんまる食堂

(5) 土地利活用等促進業務委託

陸前高田市が委嘱する復興支援員を活用し、土地等に関する情報収集や調査、PR 活動、土地利活用を推進する組織体制の整備に関する検討を行うことにより、にぎわいと魅力ある市街地形成とコミュニティの再生に寄与することを目的に実施する事業で、平成 30 年 4 月 1 日から業務委託開始。復興支援員 1 名で対応した。

(6) 復興庁被災者支援コーディネーター事業調整員業務

本事業は、地域課題の解決に向けて、支援者の抱える課題に対してマッチング等の支援を行い、支援者の課題を解決することで地域課題の解決を推進することと、地域内の自治体・支援団体等の自立的な連携体制の構築を後押しすることを目的にいわて連携復興センターと連携して実施する。平成 29 年 5 月から当法人では現地の調整員として陸前高田市内の NPO 等をヒアリングし地域課題の抽出に取り組んだ。